



11月の園だより

令和4年11月1日

目黒区立中央町保育園園長

～遊びの先にある行事を通して育まれる力～

先月には、3年振りに4、5歳児が揃って芋ほり遠足に行ってきました。日頃から、公園などで自然に触れる経験はしている子どもたちですが、その表情を見ていると、広大な自然の中での芋ほりは、また格別なものなのだ改めて感じました。「ねえ、見てよこんな（大きい）の出てきちゃった」「うわあ、どんどん（弦の先に芋が）ついてくる」土の中から想像を超える芋が次々と飛び出すので、歓声が途切れることはありませんでした。ふと見ると一人の子がじっと土の山をにらめっこしたり、友達の姿を見たりしています。芋を掘る手も、恐々という感じに見えたので「一緒に掘ってもいいかな」と声をかけると「（やらなくて）いい」と首を横に振ってまたゆっくりと掘り続けます。一本目を掘り出すには大分時間がかかりましたが、その後も掘り続けビニール袋が破れるくらい大きな芋を両手に、満足そうな笑顔で「楽しかったね」と友達に話す姿がとても印象的でした。先月に行われた運動会当日までの過程でも感じたのですが「ちょっと苦手だなやりたくないな」と思うことも「友達ができるなら、友達と一緒にならやってみようかな」という気持ちが子どもたちそれぞれの歩み方で育っていることを改めて感じた一日でした。一つひとつの遊びの先に行事がある、その活動を友達と楽しみながらさまざまな心の成長に繋がる保育をこれからも大切にしていきたいと思えます。

後半期も引き続き保育参観、個人面談を行っています。元気な子どもたちの声を近くで感じていただきたいと思えますのでご来園ください。



ぽぷら組が脱穀をしました



2022/10/26



戸外遊びの様子

つくし組(0歳児クラス)

まだ歩けていない子どもたちも保育士に抱っこされて園庭に出るようになりました。風に揺れる葉に興味を持って「何かな」と手を伸ばすと、ギュッと握ってパッと離したり「葉っぱだね」と語りかける保育士と目が合い、再び触れてみようとしています。園庭にゴザを敷いてその上で腹這い姿勢も楽しんでいます。グーンと伸ばした手がゴザを越えて地面に触れた瞬間ハッと手を引き戻し、初めて触れる感覚に驚いた姿もありました。「ザラッとしたね」「お砂だよ」「びっくりしたね」と話しながら保育士も触れて見せると柔らかな表情になり、再びそっと地面に手を伸ばしていました。子どもたちは日々の中でなんだろう、ちょっと怖いなども気になるな、触ってみたいなど色々な思いを表しています。子どもたちが見つけたものを一緒に見て触れて共感しながら戸外への関心を広げていきたいと思えます。



たけのこ組(1歳児クラス)

涼しくなってきたことや子どもたちの歩行が安定してきたこともあり、全員で緑地公園まで足を運べるようになりました。先日行った際、先に到着していたどんぐり組のお姉さんからセミの抜け殻をもらった子が「先生、これ」と見せてくれました。保育士が「セミさんが脱いだお洋服だよ」と伝えてみると、周りにいた子たちが次々とやってきて何だろうと言うような表情でのぞき込んでいます。「触ってみる」とそっと手を伸ばしてチョンチョンと指先で触れてみる姿には、初めて見る不思議な物への興味とドキドキ感があふれていました。触っても痛くもなく動くこともないことがわかるとホッとしたように「ふふふ」「触れたよ」と笑顔がこぼれていました。子どもたちの目の輝きの先にある物を一緒に見つめ、発見や感動を共に味わっていききたいと思えます。



もみじ組(3歳児クラス)

運動会が終わり、戸外で体を動かすことがますます楽しくなっています。以前は大きなタイヤを2段重ね、その上にマットをかぶせた山を軽々と登り降りしていましたが、今はタイヤを3段にして高くなった所を手や足にぐっと力を入れて登ってみたり、上に立ってぐらぐらと揺れる中でバランスをとってみる姿も見られます。その中で不安定な所に立ち進む等、2つのことを同時にするという今までより少し難しいことに挑戦しています。保育士が設定したタイヤを登り降りして楽しむことが多かった子どもたちですが、慣れてくると「こっちにタイヤ置く」と重ねてみたり「これ、ここにする」とタイヤに板を渡したりしながら、より自分たちが楽しめるように工夫する姿も出てきています。子どもたちの“これやってみたい”という気持ちを大切にしながら、体を動かす楽しさにつなげていきます。

